高齢者住宅新聞　2019年11月13日

全国の在宅医の看取り数を網羅

さいごまで自宅で診てくれる いいお医者さん（週間朝日MOOK）2020年版

朝日新聞出版
1,000円（税込）

書評
介護・医療業界
注目の一冊
評・ジャーナリスト
浅川 澄一 氏

在宅医療が浸透しつつある。だが、住民は「うちの近くに在宅医はいるのか」「訪問診療の活動実績を知りたいが」「何を判断基準にすれば」と迷う。それらを一挙に解決してくれるのが本書である。

全国の2685にも上る在宅医療機関が実名で掲載されている。そのすべてについて1年間の看取り実績件数と緊急往診数が明らかになる。在宅医療の質を推量するには看取り数が重要なポイントだ。書名にもあるように「最期まで診てくれる」ことが肝要だからだ。看取り数が多いことが「いいお医者さん」につながる。

もちろん「いいお医者さん」の判定基準は看取り数だけではない。だが、現行制度ではほかに見当たらない。本書で長尾和宏医師は在宅医の選び方として、①自宅から近い、②医師との相性、③看取り実績、の3つを挙げる。その通りだろう。

であれば、在宅医を選ぶにはまず自宅や入所施設のある地域で③の多い診療所を抜き出すことから始めたい。本書は都道府県別と市区町村別に診療所をまとめているので探しやすい。

同様の本は、同じ出版元から2015年と17年にも発売された。2年ごとに発刊している。いずれも全国の厚生局に情報開示請求して最新の年間データを集めた。

3冊目の本書では、17年7月から翌年6月までの実数を収録。前回までと違うのは、2416の診療所に加えて在宅療養支援病院にまで手を広げたこと。その結果、病院の看取り件数が意外に少ないことが判明した。全269病院のうち年間100件を超えたのはわずか3病院に過ぎない。

前回と同様に、在宅医療を始める前の基礎知識や在宅医の現場ルポ、それに長尾医師の「平穏死の10の条件」など関連記事が豊富なのも有難い。

ただ、読者の関心が高いであろう内容が盛り込まれていないのは残念だ。それは「全国で看取り件数が最も多いのはどの診療所で、どんな医者なのか。なぜトップになったのか」「看取り数の多いベスト50に、うちの地域に近い診療所が入っているのか」「看取り場所で施設や自宅がゼロなのはなぜか」――。

読者がチェックすれば判明するものもあるが、独自の分析と取材力を発揮して欲しかった。せめて看取り件数の上位ランクぐらいは…。